再評価結果

課題名	ビックデータ・ＡＩを活用したサイバー空間基盤技術
ＰＤ名（※敬称略）	安西　祐一郎

Ⅰ．総合評価結果

平成３０年度課題評価では、主として、サブテーマ間の連携の向上、スピード感を持った研究開発・社会実装の体制の構築に努めるべきと指摘されたことを踏まえ、適切なサブＰＤ三名を新たに配置し、サブテーマ間の連携向上や適切な工程管理・進捗管理を実現できる体制の構築を整備した点、研究開発の内容も前回より明確になった点は評価できる。

他方、本分野は国際競争が熾烈であり、海外の動向は常に注視してもらいたい。成果の社会実装も「言うは易く行うは難し」である。スピード感を持って、複数の成功事例を一刻も早く創出してもらいたい。安西ＰＤの強力なリーダーシップの下、三名のサブＰＤ及びイノベーション戦略コーディネーターの実行力・突破力に大いに期待したい。

なお、本課題で取り組む基盤技術は、ＳＩＰの他の課題のほぼすべてと接点を有するものであり、ＳＩＰの他の課題と連携を行う意義は極めて大きく、より積極的に他の課題との連携を図るようしてもらいたい。

総合評価	Ａ

Ⅱ．主な指摘事項

- 国際標準化戦略については、ＩＳＯ等のデジュール標準のみならずデファクト標準に関しても、海外カウンターパートとの連携等も含めて、検討の余地がある。
- 「ヒューマン・インタラクション基盤技術」については、出口戦略以前に、サービス実装の姿が十分に設計できていないのではないか。また、現場のニーズの把握ももっと必要であり、研究者自らが現場の作業に従事・体験して、真のニーズは何かをしっかり把握できるような取組をしてほしい。
- 「分野間データ連携基盤」については、成果の社会実装の担い手を明確にすべきである。
- 「ＡＩ間連携基盤技術」については、様々な代替手法がある中で、この技術の優位性を明確にすべきである。また、適用範囲は限定的で、ＳＩＰで開発を行う必要性・意義が脆弱ではないか。民間企業で研究開発すべきテーマで

はないか。

- 本課題の中には、企業の競争領域に直結するテーマが多々あり、マッチングファンド方式のマッチング率をもっと高め、民間企業からの研究開発費用の貢献を求めるべきではないか。

（以上）